

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 地球温暖化は、政府、企業、市民、NPO／NGOなど様々なステークホルダーが取り組むべき課題。地球温暖化が進行し、異常気象による自然災害が頻発すれば、支払保険金の増加、それに伴う保険料の上昇、といった影響を及ぼしかねない。● こうした事態を回避し、保険を安定して提供するという、保険会社の社会的使命を果たすために率先して、目標を掲げ、自社およびバリューチェーン全体でのCO2排出量削減に取り組んでいる。
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● CO2排出量の削減取組みの進捗管理として活用。● 算定結果はCSRレポートなどで公表。
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● 社会からの情報開示要請に応えるとともに事業費の削減にも繋がる。
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 関係部署からデータを収集し、CSR部門が算定。

	各社の考え方
□ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none"> ● ISO14001認証の維持・取得の取組みを通じて、排出量の削減に取り組んでいる。 具体的な取組み事例 <ul style="list-style-type: none"> －ペーパーレス会議の推進 －物流システムの見直し －各職場のCSR推進担当者を中心とした省エネ・省資源の取組み推進
□ サプライチェーン 排出量算定の課 題	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外グループ会社の活動量の把握および適用する排出係数
□ その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 算定の妥当性・透明性を担保するため、第三者検証を受検。

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1 「購入した製品・サービス」	● OA用紙、印刷物の購入重量	● 日本製紙連合会LCA小委員会
	● 水道使用量	● カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム
	● サーバー施設消費電力量	● 電気事業者ごとの調整後排出係数
カテゴリ2「資本財」	● 新規建物取得費用	● 原単位DB*
カテゴリ3 「燃料およびエネルギー関連活動(スコープ1,2以外)」	● 電力、熱(蒸気・温水・冷水など)の使用量	● カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム ● 原単位DB*
カテゴリ4 「輸送、配送(上流)」	● 郵便、宅配便・社内便の使用金額	● 原単位DB*
カテゴリ5 「事業から出る廃棄」	● 廃棄物排出重量(処分・リサイクル)	● 原単位DB*
	● 一般廃棄物排出重量	
カテゴリ6「出張」	● 国内の営業移動・出張・赴任における支払金額・推定移動距離	● 原単位DB*
	● 海外の出張・赴任における航空機移動距離および宿泊日数	● 原単位DB*
カテゴリ7 「従業員の通勤」	● 推定移動距離	● 原単位DB*

4

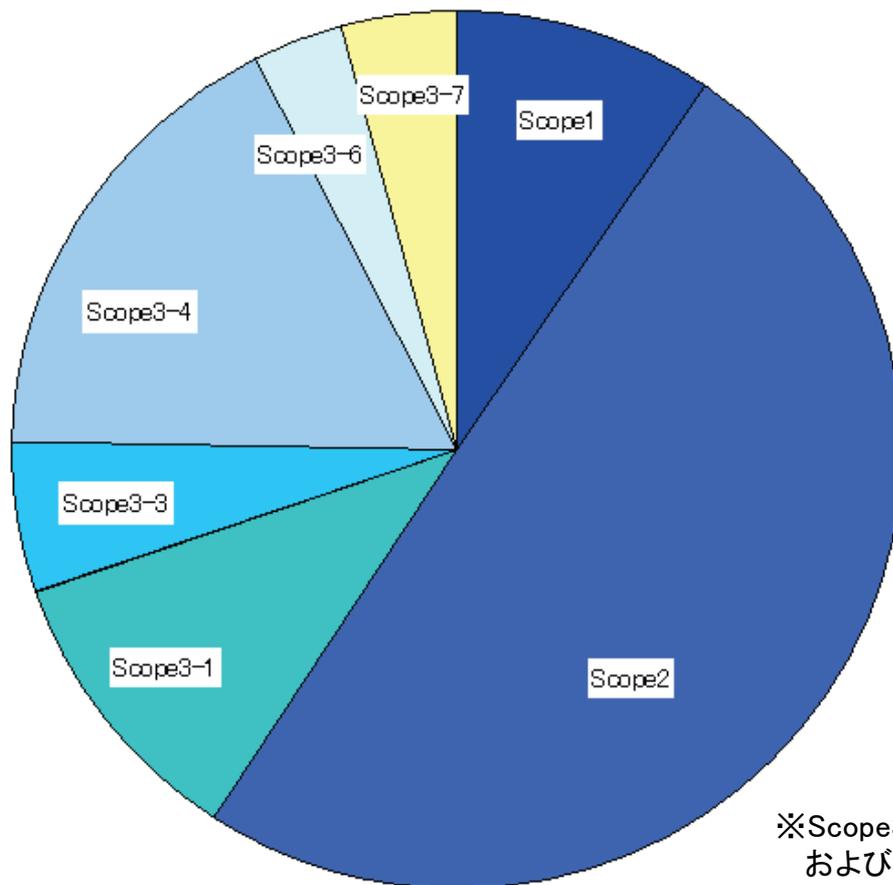
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● スコープ1、2に計上	—
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 郵便、宅配便の使用金額	● 原単位DB*
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 対象製品がないため非該当	—
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 対象製品がないため非該当	—
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 対象製品がないため非該当	—
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● リース事業は行っていないため非該当	—
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 代理店販売手数料(参考値)	● 原単位DB*
カテゴリ15「投資」	● 保有株式数(参考値)	● 投資先の排出量に対する保有株式割合
「その他」	● イベント利用時の会場面積(参考値)	● 原単位DB*

*「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等算定のための排出原単位データベース」

算定結果

2014年度 CO2排出量割合



※Scope3-5の排出量は少量、Scope3-2
およびScope3-8~15の排出量は0